

第6学年 社会科学学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「日本の歴史」 教材名「武士の政治が始まる」

2 単元の目標

源平の戦い、鎌倉幕府の成立、元との戦いを手掛かりに武士の政治の始まりを理解し、地図・写真・統計・説明資料と調査記録を扱う技能を身に付ける。「武士による政治は、どんな関係を土台に始まったのだろうか」を追究し、根拠を基に考えを表す。自分の記録を見直し、分からないことを確かめながら学習に取り組む。(2)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①源平の戦い、鎌倉幕府の成立、元との戦いを手掛かりに武士の政治の始まりを理解している。 ②地図・写真・統計・説明資料と調査記録について、対象、条件や時期、調べて分かったことを区別して記録している。	①「武士による政治は、どんな関係を土台に始まったのだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。	①武士の政治が始まるの学習で生じた疑問について、自分の記録や友達のを考えを基に調べ方や説明を見直し、解決しようとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

「武士の政治が始まる」は、第6学年の(2)を手掛かりに、人々の働きと社会の仕組みを調べる単元である。中心となる理解は、源平の戦い、鎌倉幕府の成立、元との戦いを手掛かりに武士の政治の始まりを捉えることである。名称を覚えて答えるだけでなく、「武士による政治は、どんな関係を土台に始まったのだろうか」に答えるために何を見て比べればよいかが授業の焦点になる。

本案では、武士の暮らしと土地から問題を立てるところから始め、朝廷と幕府の位置を地図で確かめる活動を通して考えを確かめる。結論だけを先に提示すると、観察や資料が答え探しになるため、予想と理由を残してから調べる。単元末には武士の政治の始まりを説明することで、学んだ言葉と根拠が結び付いているかを確かめる。

学校の既習と実態は資料だけでは決められない。前の記録を見て、説明に必要な言葉や道具の扱いを確かめる。扱ったことのない内容を既習として書き込まず、必要な確認を導入に加える。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

本時では「武士による政治は、どんな関係を土台に始まったのだろうか」を中心の問いに据える。武士の土地と暮らし、源平の争い、将軍と御家人の関係を示す資料を時系列に並べる。土地の保護と軍役などの奉公を矢印で結び、元との戦いがその関係に与えた影響を資料から考える。

児童の最初の考えを消して正答に直させるのではなく、どの記録で考えが変わったかが分かるよう書き足させる。幕府ができると朝廷はなくなったという理解には政治の拠点を地図で区別する。御恩と奉公を言葉だけで覚えず土地と軍事の具体的な関係を説明する

資料を読むことや書くことが負担になる児童には、比較する箇所を絞った図、読み上げ、指差しや口頭説明を用意する。説明の代筆は児童に内容を確認してから行い、文字量で理解を判断しない。早く説明できた児童には、同じ説明が当てはまらない記録がないかを探させる。

安全と扱いの留意点は次のとおり。武器や戦争を勝敗の遊びにせず当時の社会の仕組みとして扱う。物語の描写と史料で確認できることを区別する

5 指導と評価の計画（全4時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○武士の暮らしと土地から問題を立てる。 ○源平の争いと幕府成立を年表で読む。	知①・知②（記録・活動の観察）
第2次	2	○将軍と御家人の関係を図にする。	知①・知②（記録・活動の観察）
第3次	3 （本時を含む）	○朝廷と幕府の位置を地図で確かめる。 ○元との戦いと武士の負担を考える。 ○武士の土地と暮らし、源平の争い、将軍と御家人の関係を示す資料を時系列に並べる。土地の保護と軍役などの奉公を矢印で結び、元との戦いがその関係に与えた影響を資料から考える。	思①（個人の説明・記録）
第4次	4	○武士の政治の始まりを説明する。	態①（記録の見直し・振り返り）

6 本時の指導（3／4（配当案））

（１）本時の目標

「武士による政治は、どんな関係を土台に始まったのだろうか」について、資料の事実を示しながら自分の考えとその理由を説明できる。

（２）学習過程

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	○前時までの記録から「武士の暮らしと土地から問題を立てる」ときの疑問を取り出す。 ○「武士による政治は、どんな関係を土台に始まったのだろうか」 【めあて】調べた事実を使い、自分の考えと理由を説明しよう。 ○一人で予想と理由を書き、調べたい点を確認する。 〈予想される児童の反応〉 ・源平の戦い、鎌倉幕府の成立、元との戦いを手掛かりに武士の政治の始まりを捉えるのか確かめたい。 ・前の記録と比べると違いが見つかりそう。	・答えを先に示さず、児童がどの記録を根拠にしたかを尋ねる。 ・武器や戦争を勝敗の遊びにせず当時の社会の仕組みとして扱う。物語の描写と史料で確認できることを区別する
展開 （ 分）	○武士の土地と暮らし、源平の争い、将軍と御家人の関係を示す資料を時系列に並べる。土地の保護と軍役などの奉公を矢印で結び、元との戦いがその関係に与えた影響を資料から考える。 ○「どの資料の事実から、そう考えましたか」 ○自分の説明を相手に示し、根拠が同じか違うかを比較する。 ○説明できない記録があれば条件や資料の読み方を確認め直す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じだと思ったが、比べるところをそろえると違いがある。 ・この記録だけではまだ決められない。 ・朝廷と幕府の位置を地図で確かめることで、理由を確かめたい。	・幕府ができると朝廷はなくなったという理解には政治の拠点を地図で区別する。御恩と奉公を言葉だけで覚えず土地と軍事の具体的な関係を説明する ・結果に合わない意見も記録へ戻す材料として取り上げ、発言した児童を責めない。 ・比較が難しい児童には記録の対応する箇所を指し示し、まず事実を口頭で説明させる。 ◎思① 「武士による政治は、どんな関係を土台に始まったのだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。（個人の記録と説明。交流前後の変更理由を含めて見る。）

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （分）	○本時の問いへの答えを、根拠となる資料の事実とともに書く。 【まとめ】源平の戦いを経て鎌倉幕府が成立し、武士による政治が始まった。元との戦いは、幕府と御家人の関係にも影響した。 ○最初の考えから変わったことと、まだ調べたいことを記録する。 〈予想される児童の反応〉 ・考えが変わったのは、記録を比べたときに違いを見付けたから。 ・まだ確かめていない条件が残った。	・まとめは確認した資料の事実を根拠に書く。資料によって見方が分かれる場合は、作成時期・立場・対象を確かめ、未確認の点を残す。 ・振り返りで分かった支援の必要な点は次時の活動に反映する。 ◎知①（まとめの説明）／態①（記録を見直す過程。発言回数や文章量だけで判断しない。）

（３）板書計画

上段に「武士の政治が始まる」と本時の問い「武士による政治は、どんな関係を土台に始まったのだろうか」。左側に予想とその理由、中央に実際に調べた事実の記録、右側に事実から考えた説明を置く。中央は条件・時期・対象が分かる見出しにし、比較する記録を同じ高さに並べる。朝廷と幕府の位置を地図で確かめる際に用いた記録を残し、根拠と説明を線で結ぶ。下段には確かめられたことと、まだ残る問いを分けて置く。発言の多い子の説明だけで仕上げず、個人の記録の違いを残す。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
 みえ先生ラボ

